

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2学年	2単位	選択
担当教員			
◎岡村典子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間	
	【担当教員】 【氏名】 ◎岡村 典子	【研究室】 216	【メールアドレス】 norio@niigata-cn.ac.jp
【本学の科目区分】 専門分野			
【D P 1】 <input checked="" type="radio"/> 【D P 2】 <input checked="" type="radio"/> 【D P 3】 <input type="radio"/> 【D P 4】 <input type="radio"/> 【D P 5】 <input type="radio"/> 【D P 6】 <input type="radio"/>			

到達目標	1. 国内および海外文献を精読し、看護学研究に関わる知識を修得するとともに、基礎看護学に関する研究について概説できる。 2. 自己の関心・問題意識を、研究課題へと焦点化し研究計画書を作成できる。
------	--

授業概要	・選択した論文を精読し、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等の検討を重ねながら、研究を遂行するため必要な知識を修得する。 ・基礎看護学に関する自己の関心・問題意識を、文献検討・プレゼンテーション・討論を通して、研究課題へと焦点化していく。 ・研究課題に関する国内外の文献を包括的かつ広範に検討し、自己の研究の位置づけと意義を理解するとともに、自己の研究に適用する研究方法論を正確に理解し、研究計画を立案する。 ・看護学研究者としての役割を遂行するために必要な倫理的感覚性を高める。
------	--

授業計画	1	授業内容 授業形態：講義 学修課題：オリエンテーション 授業の意義・学習方法の理解 研究計画書作成までの過程の理解 学修内容：・基礎看護学特別演習の授業目的、内容、方法について理解する ・授業の目的に基づき、講読文献を検索する方法を理解する 備考：岡村
	2-3	授業内容 授業形態：プレゼン・討論 学修課題：国内文献の閲読とそのプレゼンテーション及び討論 学修内容：・国内の研究論文（質的研究・量的研究）を正確に理解する。 ・文献を通して学習した内容をプレゼンテーションし、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等に関する視点から討論するとともに、研究を遂行するために必要な知識を修得する。 備考：岡村
	4-5	授業内容 授業形態：プレゼン・討論 学修課題：海外文献の閲読とそのプレゼンテーション及び討論① 学修内容：・海外の研究論文（質的研究）を正確に理解する。 ・文献を通して学習した内容をプレゼンテーションし、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等に関する視点から討論するとともに、研究を遂行するために必要な知識を修得する。 備考：岡村
	6-7	授業内容 授業形態：プレゼン・討論 学修課題：海外文献の閲読とそのプレゼンテーション及び討論② 学修内容：・海外の研究論文（量的研究）を正確に理解する。 ・文献を通して学習した内容をプレゼンテーションし、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等に関する視点から討論するとともに、研究を遂行するために必要な知識を修得する。 備考：岡村
	8-9	授業内容 授業形態：プレゼン・討論 学修課題：海外文献の閲読とそのプレゼンテーション及び討論③ 学修内容：・海外の研究論文（自身の課題に関する論文）を正確に理解する。 ・文献を通して学習した内容をプレゼンテーションし、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等に関する視点から討論するとともに、研究を遂行するために必要な知識を修得する。 備考：岡村

	10-11	<p>授業内容</p> <p>授業形態：プレゼン・討論 学修課題：研究課題の焦点化と研究計画の立案① 学修内容：文献検討・プレゼンテーション・討論を通して、研究計画書作成までの過程を展開していく ・自己の関心・問題意識を、研究課題へと焦点化していく</p> <p>備考：岡村</p>
	12-13	<p>授業内容</p> <p>授業形態：プレゼン・討論 学修課題：研究課題の焦点化と研究計画の立案② 学修内容：文献検討・プレゼンテーション・討論を通して、研究計画書作成までの過程を展開していく ・研究課題に関する用語の規定、および自己の研究の位置づけと意義を理解する</p> <p>備考：岡村</p>
	14-15	<p>授業内容</p> <p>授業形態：プレゼン・討論 学修課題：研究課題の焦点化と研究計画の立案② 学修内容：文献検討・プレゼンテーション・討論を通して、研究計画書作成までの過程を展開していく ・自己の研究に適用する研究方法論を正確に理解する</p> <p>備考：岡村</p>
事前・事後学習	事前学修：看護研究法にて学修した内容を振り返る。 事後学修：学修した内容を踏まえ、研究計画書を完成させる。	
評価方法、評価基準	到達目標1については、1~9回の課題資料30%、プレゼンテーションの内容20%にて評価する。 到達目標2については、10~15回の課題資料30%、プレゼンテーションの内容20%にて評価する。	
テキスト	随时、資料を提示しながら進めるとともに、必要な書籍・文献等は授業内で案内する。	
参考図書・資料等	D.ディア著、小島道代他訳（1984）：看護研究 ケアの場で行うための方法論、日本看護協会出版会. D.F.ボーリット、C.T.ベック、近藤潤子監訳（2010）：看護研究 原理と方法、医学書院. Suzan K. Grove, Nancy Burns, 黒田裕子他監訳（2023）：バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版、エルゼビア・ジャパン. 舟島なをみ（2018）：看護教育学研究 発見・創造・証明の過程（第3版），医学書院.	
受講、課題、資料配布等のルール	初回開講時に説明する。	
教員からのメッセージ	主体的な参加を期待します。	
オフィスアワー	事前にメールにて問い合わせ。	